

第3回 館山市総合計画審議会 会議記録

- 1 日時 平成27年1月26日(月) 13時30分～16時00分
 2 場所 館山市コミュニティセンター 第1集会室
 3 出席者

委員構成	氏名	役職
市議会議員	石井 敏宏	市議会議員
	三澤 智	市議会議員
	望月 昇	市議会議員
	森 正一	市議会議員
教育関係者	半澤 美緒子	館山市教育委員会 委員
	石井 誠	国立館山海上技術学校 推薦
産業関係者	杉井 繁樹	館山商工会議所 推薦
	高橋 實	安房農業協同組合 常務理事
	小金 晴男	一般社団法人館山市観光協会 推薦
	原 徹	公益社団法人 安房医師会 推薦
	須田 敏男	館山市地域公共交通会議 推薦
	吉田 南子	館山市地域包括支援センターなのはな 推薦
知識経験者	池田 太一	一般社団法人館山青年会議所 推薦
	石井 久治	館山市町内会連合協議会 推薦
	鈴木 正弘	社会福祉法人 館山市社会福祉協議会 推薦
	古橋 博子	館山市子ども・子育て会議 推薦
	田中 真由	公募委員
	溝口 かおり	公募委員

(欠席者) 鈴木久雄委員, 三浦英喜委員

4 議題

1. 地方人口ビジョン及び地方版総合戦略の策定について【協議】
2. 各種アンケート調査の結果概要について【説明】
 - ・市民アンケート調査結果（第2版）
 - ・都市部住民向けWebアンケート調査結果
 - ・高校生アンケート調査結果
3. 基本構想の素案について【協議】
4. 現地視察について【説明】
5. テーマ別意見交換について【提案】
6. その他連絡事項

5 会議の経過

- (1) 新委員への委嘱状交付（池田太一委員：館山青年会議所 推薦）
- (2) 議事

※ 第2回審議会の決定事項の確認

- ① 地方人口ビジョン及び地方版総合戦略の策定について
（事務局より説明）

（質問・意見等特になし）

杉井会長：内容が少し難しいようなので、再審議としたい。

- ② 各種アンケート調査の結果概要について【説明】
 - ・市民アンケート調査結果（第2版）
 - ・都市部住民向けWebアンケート調査結果
 - ・高校生アンケート調査結果（事務局より説明）

（質問・意見等特になし）

- ③ 基本構想の素案について
～全体構成から将来都市像まで～
（事務局より説明）

<全体構成について>

杉井会長：構成とはどのようなものか。

事務局：計画書の構成、流れを確認してほしい。他に含めたほうが良い項目などがあれば、ご意見をいただきたい。

(特に意見等なし)

杉井会長：特に大きな問題はないかと思えます。

<将来都市像について>

三沢委員：14 ページの上から 6 行目、下から 2 行目について。

観光を意識した表現となっているが、観光を通じた交流がメインとなるならば、もっとインパクトのある表現が良いのではないか。

杉井会長：これで決定ではないということなので、参考にしてほしい。

小金委員：将来像はこのフレーズで決定なのか。

事務局：基礎調査をもとに作成した案を提示した。

これで良いのか、あるいは、別のものがあるのかを議論していただきたい。決定ではない。

杉井会長：今日決定するのか。

事務局：基本的に訂正がないようであれば、決定したい。

望月委員：安心安全のイメージの言葉が入っていたほうが良い。自然豊かだからこそ、それに備えているというところを示すべき。

事務局：検討したい。

田中委員：2 点ある。

1 点目は、序論の 3 ページ。三角ピラミッドの意味がよくわからない。どっちが土台かこれでは分かりにくい。上に基本構想がきて、下に柱状で基本計画を表現したほうが良いのではないか。

2 点目は、決まった将来都市像は、市内に掲げられたりすると思うが、プロのコピーライターにお願いしたらどうか。

事務局：「市民になじみのあるもの」として、基礎調査をもとに事務局案として考えたもの。

田中委員：市民が「館山らしい」と思うことが大事というのであれば、こういうことになるのかなどは思う。他の都市と変わりないように見える。ふわっとした感じ。よそから来た人が差別化して見るには不足している。市民が基本計画を理解する意味では良いのかもしれないが、差別化が弱い。通り過ぎてしまう。

事務局：この案は市民アンケート等から館山のイメージを導き出しているもので、一般的な単語となっている。それに変わるキーワードを使って目立った形で作成するのか、わかりやすくしたほうが良いのか、他の委員からもご意見いただきたい。

田中委員：プロは同じ言葉（一般的な言葉）を使ってもインパクトを出せる。市内在住のコピーライターにお願いしても良いのではないか。

本日決定するという話もどうなのか。今後の審議を通して、出てくる言葉があるのではないか。将来都市像は重要なので、あとから考えるべきものではないか。

事務局：これからの審議において、ある程度目指すべき方向性というものが必要。今日絶対に決めなくてはいけないというものではない。より良い提案をいただいて、変えていくことは可能である。しかし、大まかな方向性は決めたい。

田中委員：テーマとしては賛成です。

市長：皆さんと議論するために提示したものであるもので、さらに案をいただきたい。プロに依頼すると良いこともあるかもしれないが、我々が目指しているのは手作りのもの。委員の方と一緒に考えていきたい。プロに依頼することは考えていない。ただ、お知り合いにプロの方がいて、知恵を貸してもらって提案していただくというのは全く問題ない。

事務局：ピラミッドの見方について補足すると、何を指すべきかというものをまず掲げて、それを実現するためにどのようなものやっていくのかということで、上から下に考えていくというところから、このようなピラミッド型にしている。

高橋委員：「にぎわい」という言葉について。これから人口減少していくのに、「にぎわいあふれる」という言葉を将来像に使うのはどうかと思う。

市長：基本構想は夢を描くものと捉えている。人口は減っていくかもしれないが、「交流人口を増やして、にぎわいを生み出そう」、「市民のコミュニケーションを活性化することで、にぎわいを醸し出していこう」、という意味を込めて考えたもの。現実離れしているということであれば、皆さんの意見を伺いながら検討していきたい。

高橋委員：夢だけではなかなか難しい。「できるもの」として、目標として達成できるものが良いのではないか。

古橋委員：私も「にぎわい」という言葉が一番引っかかった。観光や産業・商業をイメージしているのだと思ったが、「自然が豊かだ」「財産だ」と思っている人が多いのであれば、第1次産業を6次産業という捉え方も含めて、そこを大事にしなが、人が「いきいき」とした自然豊かなまちというイメージであってほしい。文章の中には書かれているが、そこに住む、暮らす人をもう少し感じさせるような都市像でありたい。

杉井会長：これで決定ではないということですので、皆さんからもう少し意見をいただきながら、決めていきたいと思います。

(休憩)

杉井会長：将来都市像については、委員の意見を伺いながら、再度の審議としたい。

事務局：ピラミッドについては、分かりにくいという意見が他の委員からもあるようであれば、再検討したいと思う。

事務局：将来都市像とは、対外的に館山をPRすることが主の目的ではない。将来目指すべきまちを表現するもの。次回の審議会に向けて、意見や代替案を出していただき、再検討できればと考えている。

～将来人口から施策の大綱まで～

～構想の実現に向けた基本方針～

(事務局より説明)

古橋委員：21 ページの4つのテーマについて。「くらしを守る」というのはどうなのか。「安心を守る」というのはわかるが、暮らしは人と人が作り出していくという、もっと積極的な表現が良いのではないか。中身の文章では、「助け合い・ともに活かし合って、大きなものを成し遂げる」ということが書いてあるのに、ここで「守る」となってしまう。「くらしをつくる」というような表現でも良いのではないか。

事務局：さらに委員から提案いただき、再度検討したい。

石井(敏)委員：市民参加・行政運営というところで、市民参加するためには、市民が行政や議会と同じ量と質の情報を持たないとできない。情報公開、情報共有などの言葉がないが、「情報発信力の強化」というところに含まれるのか。

事務局：個別の施策・事業内容については踏み込んで作り込んでいない。

石井(敏)委員：基本構想部分にも、情報公開や情報共有などのキーワードを入れてはどうか。

事務局：検討したい。

森委員：テーマについて。国が地方創生で使っている言葉の語順と順番を変えているようだが、館山市としての何か考えがあるのか。

事務局：国の地方創生の「まち・ひと・しごと」の順番とは違うが、まちづくりは「ひと」が最重要となるので、こだわって、あえて「ひと」を最初に出した。

森 委 員：順番は私もこれで良いと思う。

杉井会長：まだまだ審議不足ということは否めません。
意見は次回もいただき、継続審議としたい。

④ 現地視察の実施について

(事務局より内容説明と出欠確認)

6名不参加

市役所4号館に13時半に集合

⑤ テーマ設定による意見交換について

(事務局より説明)

溝口委員：審議会の中で実施するのか。本来の議事だけでもかなりの時間がかかるのに、時間が取れるのか不安に思う。

杉井会長：時間の確保については、事務局との調整が必要かと思う。

溝口委員：皆さんと掘り下げて話し合うことは良いことだと思う。

田中委員：提案したものを取りまとめた資料を見たが、委員ごとに記載内容が異なり、私自身は具体的すぎる提案だったのかと思った。

幅があるので、事務局でどのレベルまでが必要なのかわからないので、事務局で設定してもらったほうが良いのではないかと。

事務局：具体的な細かな話だと、どこまで採用できるか、難しくなってくる。事務局としては全体の方向性を出してもらいたいと考えているが、テーマを絞りたいという意見が多ければ、そうした流れでもかまわない。

杉井会長：私が考えているのは、テーマ別にもう一度、委員の皆さんから事務局のほうへ書面で提案してもらい、全体の中で大きく括って、委員の全体の意見としてまとめて、次回出してもらったらどうかと考えるが、いかがか。

溝口委員：あまり小さく区切らずに、「次回は教育をテーマにします」などとして、事前に書面で意見を送り、まとめたものを当日資料にして、意見を出し合うというのはどうか。

杉井会長：それだと時間がなくなってしまいます。そのほうが十分に話し合いはできると思うが。

事務局：今後のスケジュールを勘案すると、このテーマ別で意見交換できる回数は3回程度である。あまり細かい内容ですと、時間も限られているので、ある程度大きな括りである必要があるかもしれない。

杉井会長：3回ならば、事務局で重要と思われるテーマを選んでもらったうえで、次回から意見をもらっていくこととしたい。

⑥ その他連絡事項

東海汽船の高速ジェット 館山市民号 (資料配付)

宝島社 住みたい田舎総合ランキング (資料配付)

次回は3月24日(火)、同会場にて13時半から

以 上